

〈5〉子育て施策

結果のポイント

- 子育て施策で満足していないのは、「経済的支援」を大きく引き離し、「男性の育児休暇の取得」の推進や「働き方改革等」の促進
- 保育サービスで望むことは、待機児童の解消策が最も多く、次いで病児・病後児保育
- 父親の育児休暇・休業は、夫より妻の方が取得した方がいいと思っている割合が少なく、必要と思う期間も妻の方が短い傾向にある

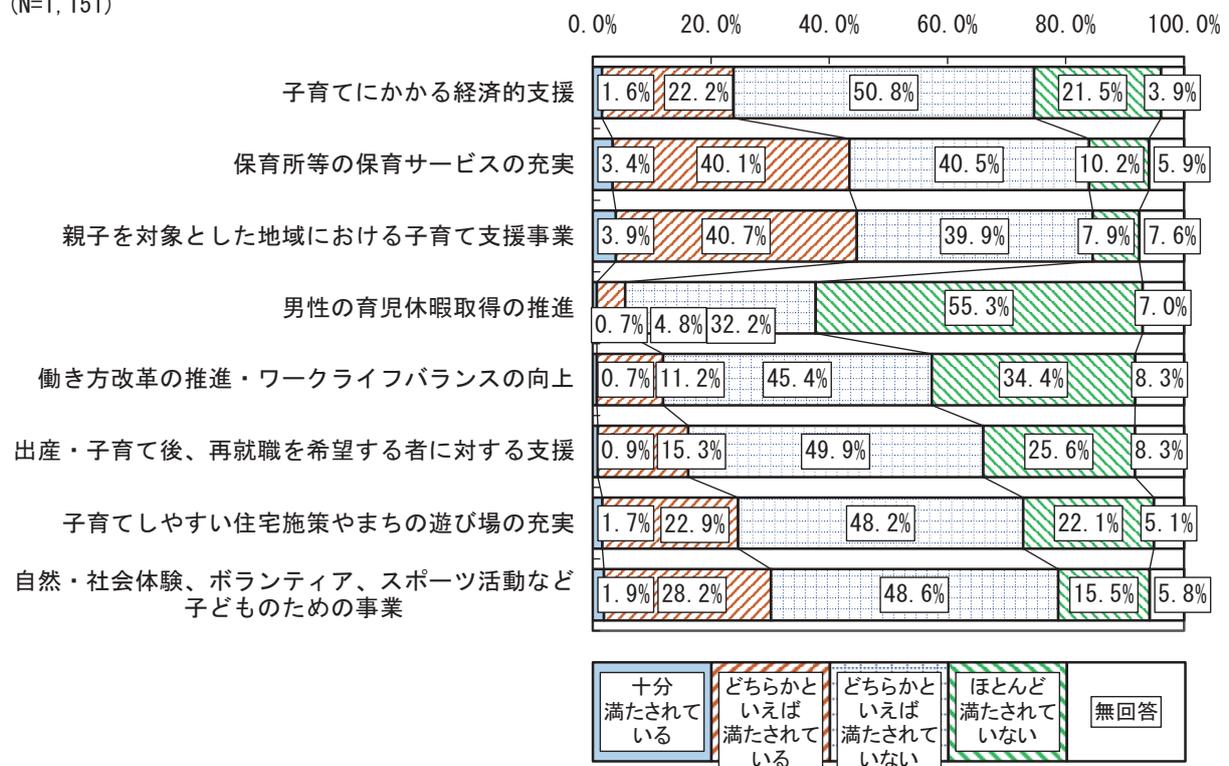
① 子育て支援策に関する満足度

「十分満たされている」と「どちらかといえば満たされている」の割合の合計は、「親子を対象とした地域における子育て支援事業」が44.6%で最も多く、次いで「保育所等の保育サービスの充実」(43.5%)、「自然・社会体験、ボランティア、スポーツ活動など子どものための事業」(30.1%)となっている。

また、「ほとんど満たされていない」「どちらかといえば満たされていない」の割合の合計は、「男性の育児休暇取得の推進」が87.5%で最も多く、次いで「働き方改革の推進・ワークライフバランスの向上」(79.8%)、「出産・子育て後、再就職を希望する者に対する支援」(75.5%)となっている。

【図表5-1-1 子育て支援策に関する満足度】

(N=1,151)



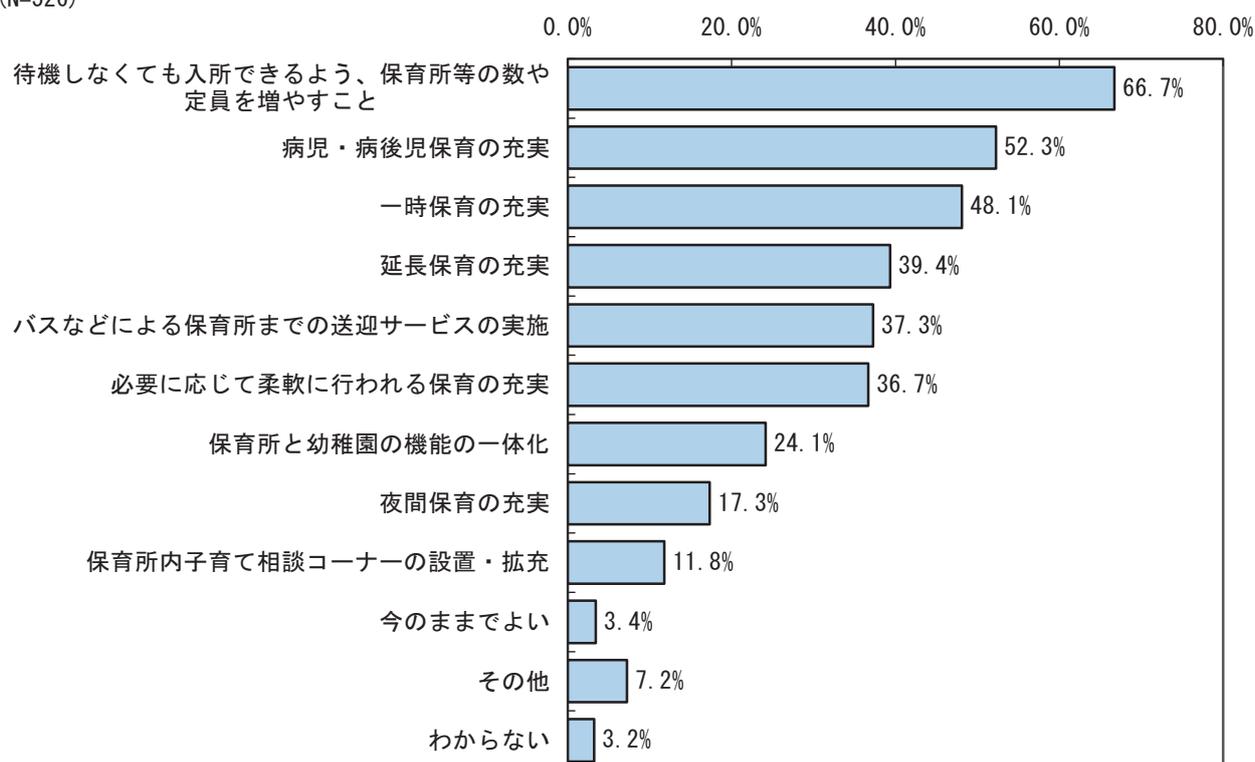
※子どものいる夫婦

② 保育サービスで望むこと

保育サービスで望むことをみると、「待機しなくても入所できるよう、保育所等の数や定員を増やすこと」が66.7%で最も多く、次いで「病児・病後児保育（風邪などの病児又は病後児を預かること）の充実」（52.3%）、「一時保育（緊急時など、一時的に利用すること）の充実」（48.1%）となっている。

【図表5-2-1 保育サービスで望むこと】(複数回答)

(N=526)



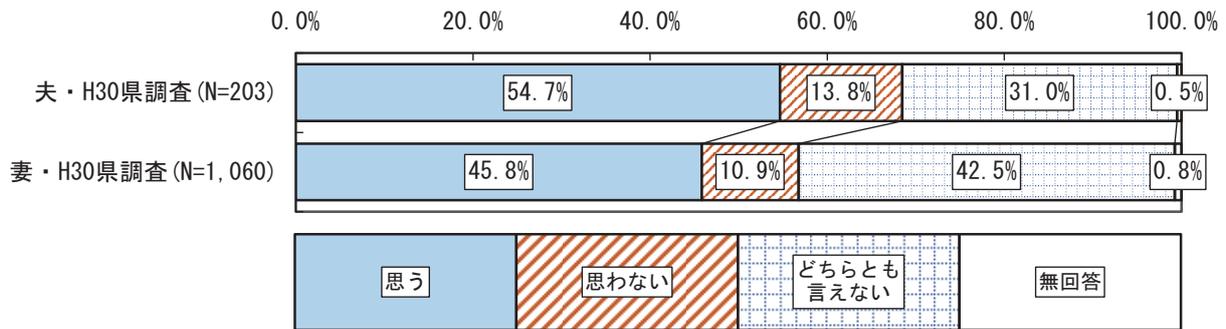
※ 6歳未満の子どもがいる夫婦

③ 父親の育児休暇・休業

③-1 父親の育児休暇・休業への考え

父親も育児休暇・休業を取った方がいいと思う人は、妻（45.8％）に比べ、夫（54.7％）の方が高い結果となっている。

【図表5-3-1 父親の育児休暇・休業取得】



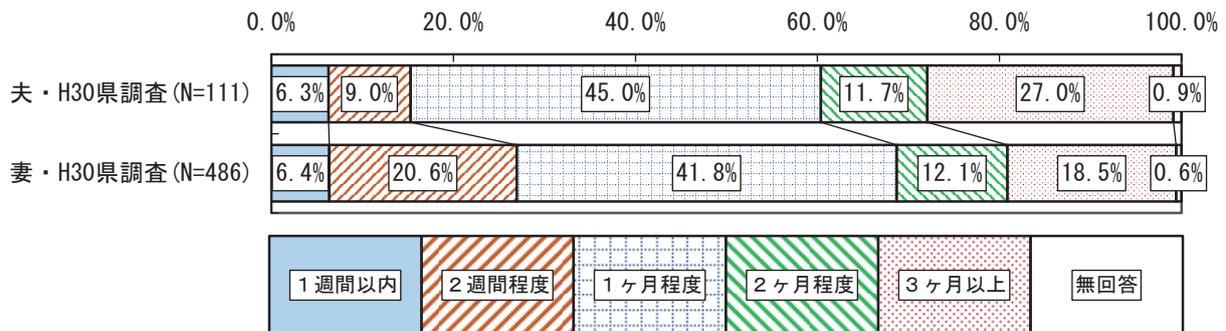
※回答者全数

③-2 父親の育児休暇・休業の必要な取得期間

必要だと思う父親の育児休暇・休業の取得期間をみると、妻では「1ヶ月程度」が41.8％で最も多く、次いで「2週間程度」（20.6％）、「3ヶ月以上」（18.5％）となっている。

夫では「1ヶ月程度」が45.0％で最も多く、次いで「3ヶ月以上」（27.0％）、「2ヶ月程度」（11.7％）となっている。

【図表5-3-2 父親の育児休暇・休業の必要な取得期間】



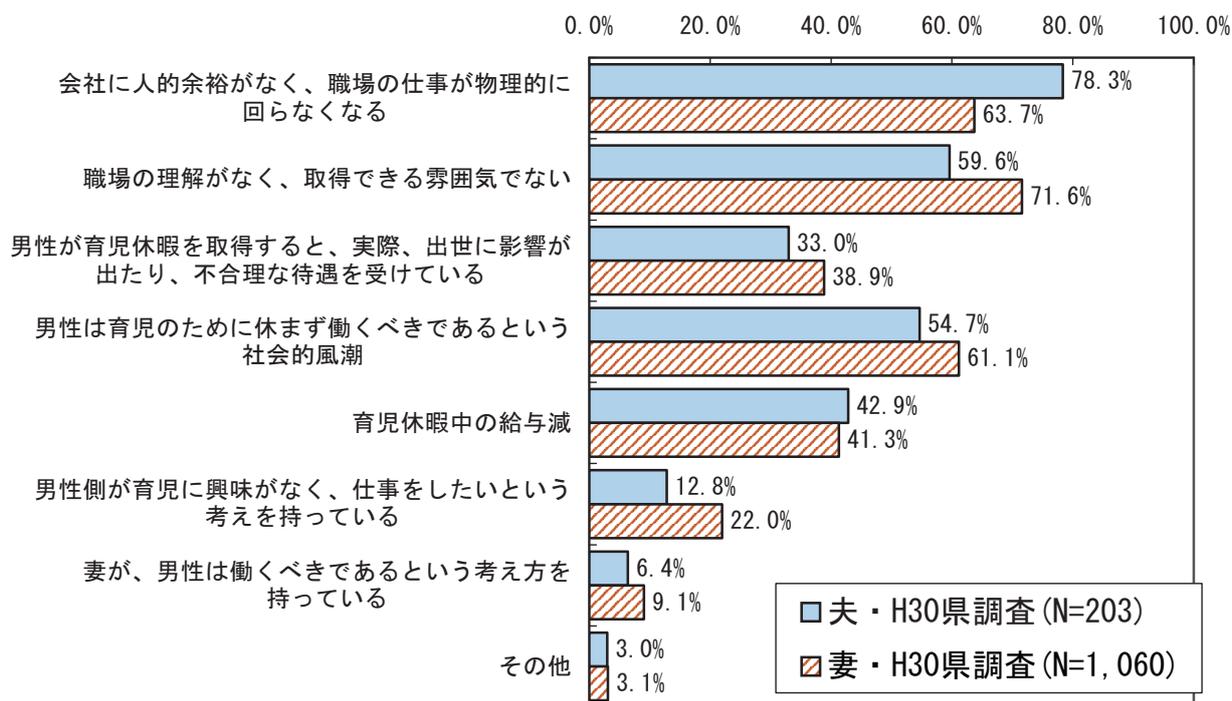
※育児休暇・休業が必要だと「思う」と回答した夫婦

③-3 男性の育児休暇・休業の取得率が低い理由

男性の育児休暇・休業の取得率が低い理由をみると、妻では「職場の理解がなく、取得できる雰囲気でない」が71.6%で最も多く、次いで「会社に人的余裕がなく、職場の仕事が物理的に回らなくなる」(63.7%)、「男性は育児のために休まず働くべきであるという社会的風潮」(61.1%)となっている。

夫では「会社に人的余裕がなく、職場の仕事が物理的に回らなくなる」が78.3%で最も多く、次いで「職場の理解がなく、取得できる雰囲気でない」(59.6%)、「男性は育児のために休まず働くべきであるという社会的風潮」(54.7%)となっている。

【図表5-3-3 男性の育児休暇・休業の取得率が低い理由】(複数回答)



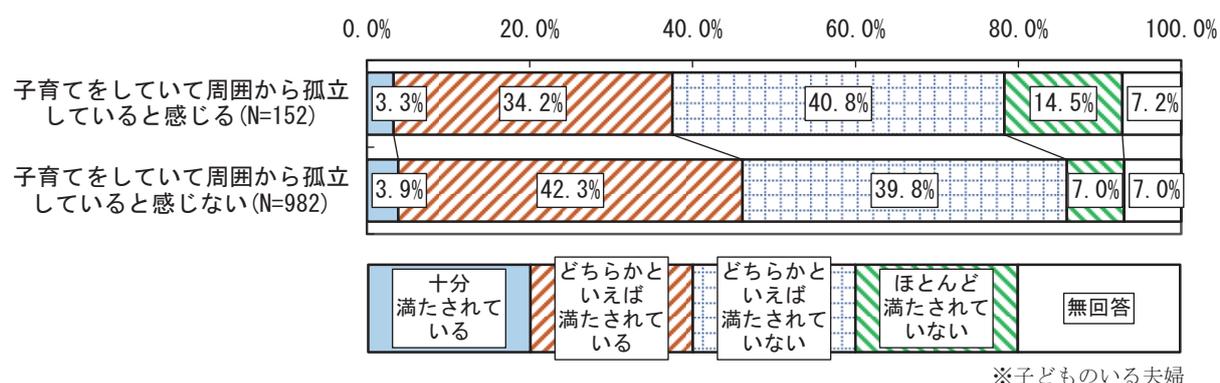
※回答者全数

◆有識者が読み解く奈良県のデータ◆ 「子育ての不安感・負担感と子育て支援の満足度との関係」
新川泰弘氏（関西福祉科学大学教育学部准教授）

子育て支援に関する満足度と子育ての不安感・負担感の相関を見ると、子育てをしていて周囲から孤立していると感じている人の方が、そうでない人より、親子を対象とした地域における子育て支援事業、自然・社会体験、ボランティア、スポーツ活動など子どものための事業について、満たされていないと感じていることが明らかになった。（下記図表5-4-1と図表5-4-2）

この結果は、社会から孤立しているほど、子育て支援の制度・サービスへの認知度が低いことを示唆している。認知度を高めれば、孤立感を低下させることにつながるのだが、そのためには、社会から孤立している子育て家庭が、保育や子育て支援の制度・サービスの利用を希望する際に、ニーズとサービスを確実につないでいく子育てコーディネートやケースマネジメントといった役割が、ますます求められることになるのである。

【図表5-4-1 子育てをしていて周囲から孤立していると感じている × 親子を対象とした地域における子育て支援事業】



【図表5-4-2 子育てをしていて周囲から孤立していると感じている × 自然・社会体験、ボランティア、スポーツ活動など子どものための事業】

